

---

# 血に魅せられた者

カイル

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

血に魅せられた者

### 【Nコード】

N70490

### 【作者名】

カイル

### 【あらすじ】

ごく普通の高校生活を謳歌していたのに。あの夜日常が崩れた・・・俺は鏡華のこと意外は普通だと思っていたのに。彼女に・・・吸血鬼に出会ってしまった。あの夜から俺の世界は変わった。

## プロローグ

俺は他の人と違うところがある。普通の人間とも言えるだろう。

だが、俺は人と違う……。俺の中にはもう一人の俺いや私がいる。いつからだろう、意識したときには私は存在していた。二重人格というやつだ。どちらかが指導権を握っているわけではない。二人で意識を共通している。二人で会話することが当たり前だ。俺は、私は二人で一人なのだ。

この事が奇怪に遭遇するきっかけになるとは思っていなかったんだ。俺も私も……

何だってこんなことになった？

くっそ！日常が崩れていく。俺が悪いのか。朝起きて日常を送っていたはずなのに、あれは何なんだ。

『きょうせいせい 俠聖！何あれ？！』

『俺が知るかよ！早く逃げねえと』

この夜、日常が崩れた……

## プロローグ（後書き）

初めて投稿します。

暖かく見守ってください。

## 日常

俠聖side

ピピッ！ ピピッ！

目覚ましの音で目を覚ます。寝起きはいいほうだ。

『おはよう、起きてるか？鏡華。<sup>きょうか</sup>』  
『って、起きてるわけねえか。』

『起きろ！！』

『ううゝおはようございます。そしておやすみな．．くうゝ』

「寝るんじゃねえ！起きろ！」

『わかったよゝつか、声にでてるよ』

げ、やば！

「」

ふうゝあぶね

『気を付けてよ。私のことばれたら消されるかもしれないんだから』

『わかってるよ。気をつける。って、お前がすぐに起きれば問題ないんだよ！何で寝起き悪いんだよ。俺なのに』

『何でだろうねゝ不思議ゝまあ、違いがあるってことはいい事じゃん』

俺達は、意識を共有している。それが当たり前で嫌悪を抱いたことはない。

鏡華とはもう一人の自分だ。名前でわかるように女だ。まあ、他の人間から見て俺は男だ。女顔・中性的だとは言われるが断じて男である！

『いいじゃん。女顔』

『よくない！男にナンパされる気持ちがわかるか・・・  
つか、心を読むな！』

『ごめん、だって、私は嬉しいし』

そうですね。鏡華は女ですものね。

意識を共有してはいるが全くプライベートがないと言う訳ではない。心を読もうとしなければ、すべて伝わることはない。

俺の名前は神野<sup>じんの</sup> 侠星<sup>きやせい</sup>。男子高校生だ。極々普通の学生で、普通よりちよつと裕福な家庭だ。

『普通じゃないでしょ』

くっそー そうだよ！そうですよ。言ってみただけじゃん！俺は普通じゃない。

鏡華がいる。

鏡華を認識したのは3歳のときだったと思う。名前は俺がつけた。鏡華は気に入ってくれた。

そんな3歳児にして名前を付けた俺は最初から普通じゃなかったんだろう。

同世代の子供たちとは遊ばなかった。鏡華がいたらそれでよかった。

両親はやっぱり心配していた。だからといって、病院に連れてかれると言うことはなかった。そこは感謝している。

この事は俺の両親は知らない。鏡華ことを言っつては駄目だと分かっていた。そんなことを言ったら、鏡華が消されてしまう。俺にとってはなくてはならない存在。2人で神野 俠星が成り立っている。どちらかがかけたら駄目だ。

鍵を閉めて学校へ向かう

「『いつてきます』」

「ううゝん 朝は気持ちいいねえ」

『ううゝ私は寝ていたよ』

『まだ寝るのかよ・・・つか、寝れるだろいつでも』

『そうだけど・・・』

俠星と同じに過ごしたいの。運命共同体でしょ。』

『お前言っつて、恥ずかしくない?』

『恥ずかしくないもん!』

『俠星とずっと一緒だからね。』

『ああ』

「はよゝ 俠星ちゃん!今日も綺麗だね」

「ああ！ 侠ちゃんじゃねえ！ あと綺麗とか言っな！！ 沙希」

「ごめん。ごめん。冗談だよ。朝から怖いよ。」

こいつは、叶野<sup>かのう</sup> 沙希<sup>さき</sup>

同じクラスで、幼馴染だ。

《天は二物を与えず》という言葉があるが、こいつには当てはまらない。

俺より頭1つ分低いが女子では高く、手足はすらりと長く、赤茶色の腰に届く長い髪を背中に流している。長い睫毛と大きな黒い瞳。まあ、美少女つてやつ。

そして、全国模試1位、成績は常にオール5。頭脳明晰、容姿端麗。男子・女子ともに知らぬものはいない、人気者である。

「はあ、俺が女扱いされるのいやだっけ知ってんだろ。たく、気をつけろよ。」

「うん。ごめん。」

「俺も朝から怒鳴って悪かった。」

頭を撫でながら、言った。

沙希の顔が赤い。

何でこいつ赤くなってるんだ？ 熱でもあるのか？

「侠星って鈍感・・・」

「なんか言ったか？ 鏡華」

「なんでも、沙希が可哀想なだけ」



はあ？訳がわからん。

「俠星、俠星！」

「うお！」

「もう、俠星ってぼくとしてること多いよね。学校行こう。遅刻しちゃう」

「ああ わかつてる。」

こうして俺達の日常は始まる。

沙希 side

あつ！俠ちゃんだ。

「はよ、俠ちゃん！今日も綺麗だねえ。」

「ああ！俠ちゃんじゃねえ！あと綺麗とか言うな！！沙希」

「ごめん。ごめん。朝から怖いよ。」

俠ちゃんに怒られた・・・

前まではちゃん付けで呼んでも怒らなかったのに、

神野 俠星

身長は高く、痩せ型だ。思いのほか筋肉はしっかりついている。

肩に届くすこし長めな黒髪。左目はグリーン、右目はブルーのオッドアイだ。何でも外国の血が入っているらしい。普段は黒のカラコンで隠している。

俠ちゃんは綺麗だ。男の子なのに女性に引けをとらない。女顔だ。本人はめっちゃめっちゃ気にしている。

だから、女扱いしたり、顔のことを言うと怒る。

「はあ、俺が女扱いされるのいやだって知ってんだろ。たく、気をつけるよ。」

「うん。ごめん。」

「俺も朝から怒鳴って悪かった。」

頭を撫でられた。顔が一気に熱くなる。

「侠ちゃん、平気でそういうことをする。はあ、女心わかってないよ。そこが侠ちゃんらしいけど」

「侠星、侠星」

聞いてない。昔からこういうことがある。

「侠星、侠星！」

あつ、戻ってきた。

「もう、侠星ってば」としてること多いよね。学校行こう。遅刻しちゃう」

「ああ わかってる。」

さあ、今日も一日頑張りますかあ！

## 日常（後書き）

第1話です。ううゝ短い・・・  
文章力がないですが頑張っていきます!!よろしく願いします!

## 日常の終わり（前書き）

やっと進展します!!

ちよつとですが・・・今回も短いです。

頑張つて書いていきますのでよろしくお願いします。

## 日常の終わり

暗い 暗い 暗いよ

何も見えないよ

ここはどこ？

どうして私はここにいるの

お母さん！ お父さん！助けて！！

・・・

何で！誰もいないの？

誰か 誰か 助けて・・・

誰かここから出して！！

「やっと、やっと見つけました。このときを永い年月、待ち望んで  
おりました。」

愛しの我が主。

必ずやあなた様をあの薄汚い人間から取り戻します。しばしの辛  
抱でございます。」

「はあゝやっと終わった」

『お疲れ様〜今日も一日頑張ってお勉強しましたねえ。』

『おう！学生の本分は勉強だからな！！』

『はあ〜とか言って苦手な教科は私と代わるくせに』

『お前も表に出たいだろ？』

『そりゃね！でも、俠星がいるからいいよ。』

『そっかあ 今度二人でどっか行くか！！』

『マジ！行く！どこ行こうか？』

『遊園地？ 映画館？ ショッピング？』

『どこでもいいよ。お前が行きたいところに行こう。』

『さあ、デート代を稼がないとな！さてさて、バイトに行くかね〜』

『やっと終わった。』

今日は満月か。

もう遅いつてのに明るいと思っただぜ。

綺麗だな

何だろう。いつもは夜空なんか気にして見ないのに

今日はやけに気になる。

それにしても本当に綺麗だ。

ドッケン！

つつ！何だ今一瞬胸が痛かった。

気のせいだよな・・・

たく、店長の人使いが荒いせいだ！！

そうだ！きつとそうだ！

さっさつと、帰って寝よ

「みつ・・・」

「ん？ 鏡華なんか言ったか？」

「何にも？ 早く帰ろう。」

「みつけた・・・」

「何か聞こえた。」

「私にも聞こえた。」

「やっと 見つけた・・・

我が主に害をなすもの。殺す・・・殺す・・・生きては帰さない。」

その声の主は、闇夜に光を照らす満月を背にこちらを見ていた。

姿は見えないが、暗闇に光る赤い瞳だけははっきり見えた。

なんだあれは！何だあの化物は！！

身がざわめくような感覚、そして懐かしい感覚。

今、俺はなんて思った！

懐かしいだと！

あるはずない。そんなこと思っわけがない。

あんな化物知らない！！

とりあえず、ここから逃げなければ！やばい

何だろう。懐かしい気がする。

私、あんなやつ知らないのに

何でこんなに愛おしいんだろう・・・

『鏡華、鏡華！』

『どうした。逃げるぞ。』

『えっ！ ううん！ 早く逃げよう！！やばいよあれ』

「逃がすか！ やっと、やっと見つけたんだ！！薄汚い人間め！殺してやる！！」



「お前を殺して我が主を取り戻す！！」

「はあはあ・・・」

「ここまでくれば大丈夫だろ。」

「何だあいつ」

「くっそ！ 何だよあれ 気持ち悪い、全身汗だくだ。」

『だめ！もつと遠くに逃げなきゃ！あいつが来る！』

「逃がさないと言ったはずだ！我が主を還してもらっ」

「さっきから何言ってるんだよ！我が主って誰のことだよ！還すも何も知らねえよ！！誰かと勘違いしてねえか！ 化物！！」

「化物だと！薄汚い人間ごときがほざくな！！我は、高貴な吸血鬼だ我が主は貴様の中にいらっしやる」

我が主、真祖の吸血鬼にして吸血鬼の皇女。

「リシャール・アインスト・ハインツベルグ様を貴様を殺して取り戻す！！」

## 日常の終わり（後書き）

次回はちよつとバトルでも書こうと思います!!  
読んでくれると幸いです。

感想待ってます!よろしくお願いします。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7049o/>

---

血に魅せられた者

2010年11月25日15時49分発行